



名和小だより

全国学力・学習状況調査の結果について

4月18日に実施した小学6年生を対象にした「全国学力・学習状況調査」の結果が返ってきました。本日6年生には結果を返しました。

今年は国語・算数・児童質問紙（学習生活アンケート）が実施されました。本校の結果は全国平均より国語は高く、算数はやや低い結果となりました。

【国語】

〈良かった領域〉

- 「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり、関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる。」
- 「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり、関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる。」
- 「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。」
- 以上の3つから、目的や意図に応じて文章や表現されている内容等の情報を扱う能力が高いと言えます。
- 「文の中における主語と述語との関係を捉えることができる。」
- 文章の基本構成を理解していると言えます。
- 「人物像を具体的に想像することができる。」
- 文章で表現されている内容を的確に理解していると言えます。

〈課題となる領域〉

- △「目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができる。」
- △「話し言葉と書き言葉との違いに気づくことができる。」
- このことから、話し言葉と書き言葉のそれぞれの特徴を理解していない児童がいると言えます。
- △「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。」
- 漢字の2問中1問は、全国平均より大きく下回っており、無回答も多くいました。

〈まとめ〉

目的や意図に応じて、集めた情報を分類したり関連付けたりして、伝えたいことを明確にする力は高いと言えますが、日常生活の中から話題を決め検討する力は、やや低いようです。今後も、文章や会話の中から重要な部分に線を引いたりメモしたり、同じような考えをまとめたり、順序を考えて系統化するなど、目的に応じて必要な情報をあつめる活動を取り入れて、情報を整理する力を身につけていきます。

漢字の学習は確実に身につけている漢字と、そうでない漢字があるので、単純な漢字練習だけでなく、文や文章の中で使おうとする習慣を身につける必要があります。また、漢字の意味をしっかりと理解し、同音異義語に注意をすることで、文章の中で正しい漢字が使える力を身につけていくことも重要です。

【算数】

〈良かった領域〉

数と計算

- 「計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できる。」
- 「除数小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解している。」
→日常生活の中で必要な数字を読み取り、計算をすることができます。また、計算の仕組みも理解しており、説明をすることもできています。

図形

- 「直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解している。」
→図から条件に当てはまる数値を的確に選ぶことができます。言葉の意味や関係性も理解できているようです。

〈課題となる領域〉

数と計算

- △「問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができる。」
- △「除数小数である場合の除法の計算をすることができる。」
- △「示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断することができる。」
→文章問題の数量関係を正しく捉えられないようです。
表に関しては、必要な情報を読み取ることを苦手とする児童がやや多かったです。

図形

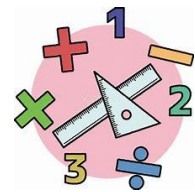
- △「直方体の見取り図について理解し、描くことができる。」
→見取り図については、斜線の角度や辺の長さを正しく捉えられていない児童がいました。
実際に、図に書き込むことで、正しい解答を得ることができます。

変化と関係

- △「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる。」
- △「速さの意味について理解している。」

〈まとめ〉

全体的に、計算問題はよくできています。計算ができて満足するのではなく、計算の仕組みや計算の方法など説明ができるようにしておくことが、これからは求められています。「速さ」の問題は全国的にも正答率が低かったです。「速さ」「時間」「道のり」は分かっているも、それらの関係を確実に理解し、説明できるようにすることが必要です。そのためにも「速さ」の意味や性質を考える際にいくつかの場面を考えるようにすると良いです。



【児童質問紙（学習生活アンケート）】

全国平均より高かったもの



〈生活〉

- ・携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について家の人と約束したことを守っていますか。（「きちんと守っている」→本校53%、全国39%）
- ・健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生から教えられたことを、普段の生活に役立っていますか。（「している」→本校46%、全国35%）

〈学習〉

- ・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。（「当てはまる」→本校43%、全国32%）
- ・先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。（「当てはまる」→本校67%、全国47%）

〈学級〉

- ・人が困っているときは、進んで助けていますか。（「当てはまる」→本校65%、全国46%）
- ・学校に行くのは楽しいと思っていますか。（「当てはまる」→本校55%、全国47%）
- ・あなたの学級では、学校生活をよりよくするために学級会で話し合い、お互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。（「当てはまる」→本校48%、全国36%）

〈自己肯定感・自己有用感〉

- ・自分には良いところがあると思いますか。（「当てはまる」→本校63%、全国43%）
- ・困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。（「当てはまる」→本校46%、全国30%）
- ・将来の夢や目標を持っていますか。（「当てはまる」→本校71%、全国61%）
- ・人の役に立つ人間になりたいと思っていますか。（「当てはまる」→本校78%、全国71%）
- ・自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。（「当てはまる」→本校42%、全国30%）

全国平均よりやや低かったもの

- ・友達関係に満足していますか。（「どちらかと言えば当てはまらない」＋「当てはまらない」→本校13%、全国9%）
- ・算数の解答時間は十分でしたか。（「全く足りなかった」→本校7%、全国2%）

〈まとめ〉

「学校生活アンケート」に関しては、回答の選択肢が「当てはまる」「どちらか」というと当てはまる」という肯定的なものがありましたが、今回の分析では「当てはまる」のみピックアップして、「本校」と「全国」の割合を比較してみました。その結果、多くの質問内容で、「当てはまる」と回答した児童の割合が全国を上回るという結果になりました。本校では、前向きな気持ちをもっている子どもたちが多くいることがうかがえます。今後も、子ども達の意欲をさらに向上させるために、子どもたち同士が関わる時間を大切にするとともに、道徳科や学級活動で子どもたちによる話し合い活動を通して、相手としっかりと向き合い、意見を交流させながら心の成長を図ります。様々な活動の中で「褒める、認める、励ます」の言葉がけを大切にして子どもたちの自己肯定感の向上に努めます。